

## 第3章 昭和56年度山口大学構内吉田遺跡の調査

### 第1節 昭和56年度山口大学構内吉田遺跡調査の概要

山口大学埋蔵文化財資料館は昭和53年発足以来、建物の新営およびその他の掘削工事に先だって関連部局をはじめとして学内、学外の全面的な協力を得て事前に調査を実施してきた。その際、埋設管工事、キャンパス内環境整備等にもなう諸工事の予定地においては立合調査を実施し、施設整備等にもなう建物新営工事の予定地においては吉田遺跡調査団による周辺地域の発掘調査を勧告し、試掘調査によって本格的な調査が必要であると認められた地区について事前調査を実施している。

本年度は試掘調査を含めた事前調査として下記の3件の予定地について実施した。

教育学部校舎新営予定地 (H-19区、P L.1-1)

教育学部音楽棟新営予定地 (H-16区、P L.1-2)

教育学部美術科・技術科実験実習棟新営予定地 (J-19・20区、P L.1-3)

校舎新営予定地における発掘調査では弥生時代中期から後期の竪穴住居跡4基、土壇8基、溝4条、柱穴、歴史時代の土壇、溝等が検出された。このうち弥生時代後期に属すると思われる円形の平面プランをもつ竪穴住居跡は外方へ階段状に張り出したテラスをもち、非常に特異な形態を有していた。また、本調査区は現地保存されている吉田遺跡調査団の呼称する第Ⅲ地区の北区に近接しており、キャンパス内において検出された個々の住居跡の時間的、空間的まとめおよび推移を把握するうえで貴重な資料であるとの判断にもとづき保存の要請を行なった。その結果、周辺地域において将来検出されることが予想される同様な遺構についての資料を集積し、あわせて集落跡として吉田遺跡を明確に位置づけるべく記録保存による措置が講ぜられた。

また、立合調査においては下記の8件について実施した。

正門橋脚新営工事 (H-11区、P L.1-4)

時計塔埋設工事 (H-14区、P L.1-5)

本部構内擁壁工事 (K-14区、P L.1-6)

教養部構内擁壁工事 (I-17区、P L.1-7)

構内循環道路舗装工事 ( 構内 、 P L.1-8 )

昭和56年度山口大学構内吉田遺跡の調査

- 農学部中庭整備工事 (O-17区、P L.1-9)  
暖房施設改修工事 (O-16区、P L.1-10)  
学生部文化会車庫新営工事 (L-8区、P L.1-11)  
学生部馬場整備工事 (M-8・9区、N-8・9区、P L.1-12)

教養部擁壁工事、暖房施設改修工事、学生部文化会車庫新営工事については、埋蔵文化財に支障のない範囲内の工法等の配慮を求めた。掘削深度の浅い時計塔埋設工事、本部擁壁工事、構内循環道路舗装工事、農学部中庭整備工事においては、過去の調査資料の僅少さを補足し、将来の建物計画等を配慮して土層観察を目的とした立合調査を実施した。学生部馬場整備工事では、北方、東方から延びる丘陵がこの地区において著しく削平をうけており、表土下部はすでに三群変成岩よりなる岩盤となっていた。

